

湯を取りにきた時、一天俄かにかきくもって、物すごい大夕立となった。あわてて近くのコンクリのドカンにもぐりこんだ。雨の勢いはさっぱりおとろえぬ。たいくつまぎれに唄い出した。チャカホイ節やヨカチン等々。トナリのドカンに「従三位」の校長閣下がもぐりこんでるとはつゆ知らず……。

いやな客ども

一日の勤労奉仕作業（三鷹飛行場造りの整地）が終ると汗とドロまみれのまゝで京王電車にとびのって新宿へもどり、伊勢丹の屋上へ直行する。屋上のビヤホールも夕方だと喫茶もできる

第一の目的は、このつめたいタオルで汗だらけの顔や腕などをふくためだ。何とも気分爽快……然しキレイナタオルもかなりよごれて気がひける

コーヒー一杯でネオンが光り出すまでねばられたのでは伊勢丹としてもあまりいい客として歓迎はできないだろうな

勤労奉仕（皇居前広場の整備作業 当時……宮城と呼んだ）力士の団体、宗教の団体その他多くの団体にまじって、我々美校でも作業に参加した。

ガッチリした大八車へ石垣用のゴツゴツした石のカタマリをのせて、警視庁の方迄運ぶ重い作業だ。車に山のように積んで運ぶグループもあればたった一つの石を五、六人で一台の車、カケ声とスピードだけが派手なグループもあり石コロが車の上でおどっている。

一日の仕事が終ると全員集合で陸軍少将が講評をしたが美校グループは一度もほめられたことがなかった。

⑧ ヒットラー・ユージェント来校

昭和十一年十一月二十五日に日独防共協定が調印されて以来、日独両国は急速に協調を深めたが、文化的協調運動の一環としてヒットラー・ユージェントが来日し、一行は昭和十三年九月二十七日に本校や東京音楽学校を訪れた。当日の様子を翌二十八日付『万朝報』は次のように伝えている。

昨日は美術音楽の粹に觸れる

ヒットラー・ユージェント

廿六日鎌倉、箱根方面から歸京したヒットラー・ユージェント一行は廿七日午前九時三十分から東京中央卸市場を見學、ついで午後に東京美術學校を訪問、日本美術教育の實情を見學、ついで午後は二時から上野東京府美術館に目下開催中の院展を見學、日本傳統の深遠幽玄の繪畫美に陶醉一時間の見物の後三時から東京音楽學校の歡迎演奏會に臨んだ、プログラムは第一部邦樂觀世左近さんの船辨慶、宮城道雄さんのうてや鼓、或は長唄越後獅子等を聞き更に第二部洋樂では音楽學校生徒の獨逸國歌、ナチスの歌、ヒットラー・ユージェント歡迎の歌の合唱があり祖國の歌の響きにヒットラー・ユージェントも共に唱和、音楽に結ばれた強い日獨交驩風景を描き出し、更に愛國行進曲、ベートヴェン作曲彌撒曲等の合唱演奏があり最後に君が代が代が嚴かに齊唱されて歡迎演奏會を閉じた、夜は午後六時よりオットー獨逸大使の招待晚餐會に臨んで祖國の話題に花を咲かせた

一行は本校見学後に東京朝日新聞社主催の招待午餐会（上野精養軒）に臨んだが、ここには横山大観、堅山南風、斎藤隆三その他日本美術院の人々が出席。大観は「日本画の真髓」と題して講演し、「今や未曾有の非常時局に際會しすべてが新らしく變革しつつある、近き將來の日本の藝術は世界に無比な我が尊い國體に則り、我民族の尤も高い精神を代表して創造されるだろう」とその意氣を示した。また、堅山南風は東山新吉（魁夷）の通訳で日本画制作を演じた（同二十八日付『東京朝日新聞』）。この年の十一月二十五日には日独文化協定が調印され、文化的協調に拍車がかけられた。

ヒットラー・ユーゲント来校に際して図案部生徒の間で騒動が持ち上がった。図案部に來訪のときはハーケンクロイツの旗を描いて歓迎しようという者とその必要なしとする者との衝突である。結局歓迎派が大勢を制して旗が掲げられたが、折りしも來校した和田三造教授が「彼らは見学に來たので、その必要なし」と、直ちに旗の撤去を命じた。しかし、生徒の一部に不満があったという。